

## 平成26年度事業報告

### 1. 事業の実施に係る事項

#### 1) 富士山に残されている天然林を保全、活用する事業

《事業》植生防護柵内の地掻き作業

《目的》埋土種子の発芽、小動物の種子散布等の効果を観察し人工林を混交林に復元するための実験として実施

《実施日》5/1・5/20

《内容》須山口周辺に前年度に静岡森林管理署と協働で設置した4箇所の植生防護柵のうち3箇所で実施・渡邊定元農学博士指導による。

《事業》森林保全の情報交換

《目的》ニホンジカの食害等についての情報交換

《実施日》7/25

《内容》富士常葉大学環境防災研究所

常葉大学山田辰巳教授、静岡森林管理署枝澤所長、当会から横山理事長と勝又事務局長が参加。ニホンジカについての情報交換、鹿肉の試食など。

《事業》天然林に設置した植生防護柵および対照区の毎木調査、コドラート植生調査

《目的》植生防護柵の効果を検証するためのモニタリング調査・基礎データの収集

《実施日》8/25 9/12 9/24 9/30

《内容》静岡森林管理署、常葉大学環境防災研究所と協働で実施

植物調査 静岡県環境調査委員会植物部会長 杉野孝雄氏

柵内および対照区の全ての樹木と2m四方のコドラート11箇所を杉野孝雄氏(常葉大学環境防災研究所が依頼)、石川会員、勝又事務局長の3名で調査を行い、モニタリングのための基礎データとした。

《事業》大蔵高丸植生防護柵見学

《目的》先進事業での植生防護柵の効果を見学

《実施日》9/8

《内容》環境省自然公園指導員の半場良一氏が甲州市大蔵高丸で取り組んできた植生防護柵の効果などについての現地研修。 役員4名が参加

【※ 大蔵高丸植生防護柵見学レポート】

《事業》富士山自然誌研究会フィールドワーク参加

《目的》次年度以降の活動地である須走口周辺の自然環境を学ぶ

《実施日》9/21 10/18

《内容》須走口小富士で各分野の先生方による現地レクチャーが行われた。

ホシガラスの会より役員、会員、計14名が参加。

《事業》樹皮防護ネットの設置

《目的》ニホンジカによる樹皮の被食のため多発している立ち枯れを防止

《実施日》10/30 11/7 11/17

《内容》静岡森林管理署、常葉大学環境防災研究所、NPO法人富士山クラブと協働で実施  
登山道脇では倒壊や枯れ枝の落下等が懸念されるため歩道周辺を主に実施した。  
46名が参加

【※ 旧須山口周辺の防護ネット設置事業中間報告】

《事業》植生防護柵設置のための予備調査

《目的》草原環境の貴重な植生を保護

《実施日》11/27

《内容》裾野市 旧水ヶ塚遊歩道の現地調査 静岡森林管理署、常葉大学環境防災研究所  
動物学者 今泉忠明氏

6月の予備調査の結果をふまえ、草原部分に植生防護柵を設置することを当会が  
静岡森林管理署に提案したのに対し、森林管理署はそのための現地確認を行い設  
置可能な部分の計測を行った。また、動物調査のためのセンサーカメラ設置の指  
導を今泉氏に依頼し現地確認した。

《事業》センサーカメラによる動物調査

《目的》動物の生息調査および植生防護柵設置候補場所のニホンジカの状況調査

《実施日》12/23

《内容》裾野市 旧水ヶ塚遊歩道周辺の森林に動物調査のためのセンサーカメラを4箇所  
設置 静岡県自然環境調査委員会哺乳類部会 浜田俊氏が同行 多数の野鳥の巣、  
熊棚などを確認した。

## 2) 富士山の森林で過去に失われた生物多様性を復元し、水源涵養力を保全するための事業

《事業》現地見学会

《目的》活動の重要性と意義の啓発

《実施日》5/31

《内容》通常総会終了後に植生防護柵などの現地見学

《事業》会員限定勉強会トレッキング

《目的》活動の重要性と意義の啓発

《実施日》7/22

《内容》調査が主活動となっているため会員が現地を知る機会が少ないので会員を主に  
活動区域の森林の状況と植生防護柵などについての勉強会を実施 16名が参加

《事業》赤谷プロジェクト見学

《目的》人工林を天然林に復元する先進事業の研修

《実施日》10/21

《内容》生物多様性の復元に取り組む先進事業「赤谷プロジェクト」を関東森林管理局赤谷森林ふれあい推進センター藤澤署長、藤木自然再生指導官の現地案内とレクチャーで学んだ 3名が参加

【※ 赤谷プロジェクト現地見学リポート】

《事業》静岡森林管理署主催の意見交換会に参加

《目的》人工林を天然林に復元するための提言に繋げる

《実施日》2/16

《内容》富士森林計画区における次期管理計画策定において市民からの意見を聞くという初めての意見交換会が開かれ、当会に参加の要請があり横山理事長、志賀副理事長、勝又事務局長が出席した。

当会の活動を進める上でたいへん有意義な意見交換会であった。計画の具体化が進む次年度前半までに積極的に要望を出したいと考えている。

### 3) 地域の環境教育に富士山の自然環境を活用する事業

《事業》浅黄塚檜丸尾溶岩流～東白塚の旧遊歩道調査(旧水ヶ塚遊歩道)調査

《目的》将来の環境教育に活用するための予備的調査

《実施日》6/14

《内容》野鳥調査 菅常雄理事 植物調査 大嶋章氏夫妻 裾野市富士山資料館館長が参加 報告書を静岡森林管理署に提出 (植生防護柵の必要性など)

【※ 調査報告 平成26年6月14日 旧水ヶ塚遊歩道・東白塚予備調査】

《事業》御殿場市 幕岩コース調査

《目的》将来の環境教育に活用するための予備的調査

《実施日》7/1

《内容》植物調査 佐藤孝敏氏(静岡県環境調査委員会植物部会会員)

主に御殿場口新五合目～幕岩までのコース上の植物を記録

《事業》水をめぐる森の教室トレッキング(ランドネ・キリンディスティラリーズ主催)

《目的》森林保全活動の重要性と意義の啓発

《実施日》7/12～8/9 (4回)

《内容》講師として協力 4名が参加 (ランドネ10月号に記事掲載)

《事業》森づくりイベント参加

《目的》野鳥と樹木から里山環境と森の成り立ちなどを教育

《実施日》11/1

《内容》国立中央青少年交流の家、土に還る木森づくりの会主催の森づくりイベントに於いて「木と野鳥の観察会」講師として協力 (菅理事、勝又事務局長)

《事業》パネル展示

《目的》森林保全活動の重要性と意義の啓発

《実施日》3/10～3/16

《内容》御殿場市民活動支援センターふじぎくらロビー

今年度の活動の締めくくりとして「富士山の森と生物多様性」をテーマにパネル約100枚と「ホンガラスの会活動紹介」を展示。

#### 4) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

《事業》御殿場口雪代堆積地の生物多様性保全

《目的》行政に現地の外来種と侵入植物についての問題点を提言

《実施日》11/10

《内容》静岡県 環境局自然保護課 富士山保全班の外来種情報聞き取り調査に協力  
県の主導で関係団体間に問題点の共有を図る話し合いが必要であることを提言  
御殿場市、玉穂財産区、富士山自然誌研究会を加えることを要望  
(勝又事務局長)

《事業》御殿場口雪代堆積地の生物多様性保全

《目的》外来種、侵入種の実態を明らかにし生物多様性保全の資料とする

《実施日》11/15

《内容》御殿場口雪代堆積地の外来種、侵入種調査 植物調査 佐藤孝敏氏 勝又事務局長  
現状を正しく把握するため、外来種の調査研究をしている静岡県自然環境調査委員会植物部会の佐藤氏に依頼して御殿場口の植栽活動区域の侵入植物調査を実施  
外来種10種を含む30種以上の侵入植物を確認  
【※ 富士山南東斜面の自然環境と植栽活動について・調査報告】

《事業》静岡県環境局自然保護課主催の意見交換会に参加

《目的》御殿場口五合目周辺における外来植物等の問題を関係者が共有する

《実施日》12/16

《内容》御殿場口五合目周辺における外来植物等に関する意見交換会 (御殿場市民会館)  
御殿場市、玉穂財産区、御殿場ライオンズクラブ、富士山ナショナルトラスト、  
富士山みどりの会、土に還る木・森づくりの会、富士山自然誌研究会  
当会より11/15の調査報告を配布。侵入植物の駆除が必要な状況であることなどの  
現状認識と問題の共有ができた。  
当会勝又事務局長より、「植栽は考えなおす時期にきている」、富士山自然誌研究会菅原会長から、「貴重な自然なので手を加えるべきではない」との意見が出された。富士山ナショナルトラスト花田氏からは「崩落防止のために植栽は必要であり、そのために土壌改良を行っている」、富士山みどりの会の渡辺健二氏より「市街地に雪代の災害が及ぶのを防ぐために植栽は必要」との意見があった。

《事業》 第一回会員セミナー(勉強会)

《目的》 調査などの総括と今後の調査活動について会員の知識を深める

《実施日》 1/31

《内容》 御殿場市民活動支援センター会議室

目的に専門家を招いて勉強会を実施。講師は動物学者の今泉忠明氏、いであ株式会社から昆虫の専門家小畑洋道氏、静岡県自然環境調査委員会植物部会の佐藤孝敏氏に依頼した。

今泉忠明氏が、1年間記録した4台のセンサーカメラ写真を使用して動物の種類、行動、年齢など動物学者ならではの解説と、今取り組んでいる奥多摩でのビデオ記録も紹介。今後の調査へのアドバイスなどもいただいた。

小畑洋道氏は昆虫調査の調査機材を展示してモニタリングサイト1000などを参考に実際の調査におけるエピソードなども紹介しながら調査の方法などを説明した。佐藤孝敏氏は帰化植物の定義について、植生防護柵の調査に協力していただいた杉野孝雄先生など三人の植物学者の考え方を紹介。御殿場口で記録した外来種などを詳しく解説した。会員およびゲスト計22名が参加。

活動の中で纏めた調査報告・レポートなどは管轄官庁、行政、協力団体などに提出するとともにホームページでも公開している。

## 2. 総括

官、民、学と協働での環境保全への取り組みを積極的に情報発信し、各関係者に認識を深めていただくことができた。これからも調査研究を基に情報発信を続けることで活動の幅がさらに多方面へと広がることを期待される。